

吹田市勤労者福祉共済運営委員会（会議録）

- 1 日 時 平成30年11月20日（火） 午前10時00分～午前11時00分
- 2 場 所 吹田市役所 高層棟4階 特別会議室
- 3 出席者 安部委員・安藤委員・井上委員・植田委員・小島委員・土橋委員
平井委員・松尾委員・松下委員・矢野委員・山口委員・熱田委員
- 欠席者 岸原委員
- 事務局 畑澤部長・奥山室長・大音参事・廣澤主任
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 議題 (1) システム改修について
(2) 平成31年度予算案について
(3) 45周年事業について
(4) その他

【 システム改修について事務局より説明 】

勤労者福祉共済事業における支払業務は、吹田市指定金融機関に、福祉共済システムで作成した振込データを渡すことで振込を行っています。平成30年8月1日の指定金融機関変更に伴い、これまで任意であった振込先銀行名・支店名のカナ項目が必須項目となりました。従来のシステムには銀行名・支店名のカナ項目がありませんでしたので、今回、平成30年9月18日にシステム改修を行いました。

システム改修委託料は378,000円で、予算措置としましては、平成30年6月18日の地震により、毎年実施している福利事業「市民プール利用券」(予算額405,000円)の支出見込が0円となったため、福利事業からシステム事業に流用を行い、委託料を支払いました。

【 平成31年度予算案・今後の収支見込みについて事務局より説明 】

会 長 : 事務局からの説明についてご質問、ご意見があればお願いします。

委 員 : 事務事業の予算の中で、大体予算額と決算額は近い金額になっていますが、旅費については、予算額と決算額が解離しています。旅費の執行内容を具体的に教えてください。

事 務 局 : 事務事業の旅費は、大阪府下の共済会が集まる会議に出席する際の交通費であったり、加入を検討されている事業所に制度説明に伺う際の交通費を想定して予算計上しています。ただ、事業所に説明に伺う場合は、公用車で伺う場合も多く、実際の執行が予算額と比べると少額となっております。

副 会 長 : 今後の収支見込みについてですが、昨年の資料と見比べますと、基金の残高が90万円ほど増えています。また、歳出の給付の予算額が昨年と比べてかなり減っています。給付事業の予算の根拠の数字が、過去5年間の平均の5%増しとのことで、こちらも昨年の資料と比べますと、件数はあまり変わっていませんが、毎年数字が60万円くらい金額は減っています。今後の見込みとして、平成38年度まで予測されていますが、給付もこれだけ変動があり、掛金収入も同じトレンドでは動かないとなりますと、この予測自体意味がないのでは、と思います。

事 務 局 : おっしゃるとおり、給付事業費につきましては、年によってかなり変動します。死亡弔慰金や傷病見舞金等、予測が難しい給付金がある上に、永年勤続慰労金等ある程度予測できる給付金についても、毎年かなり振れ幅がございます。給付事業費につきましては、平成31年度の予算が平成38年度まで同額で続くことはないことは認識しております。ただ、現在、基金をどんどん取り崩していく予算計上になっており、このままの予算の立て方で安定的に運営していけるのかということを経理局として把握したいという思いがあり、運営委員の皆さまにもご確認いただきたい

いと考えております。

委員： 給付事業費の予算について、過去5年間の実績の平均を5%増しで予算を立てていますが、5%増しにしなければ、基金を取り崩さなくてもよいのですか。

事務局： 5%増しがなくても、取り崩さなくてよいということはないと思います。年度途中で給付事業費が足りなくなった場合、他の事業から予算を寄せ集めてきます。それでも足りなくなった場合、予算額を増額するために補正予算として議会での承認が必要となります。円滑に給付事業を実施するためにも、例年、過去の実績よりは多めに予算を計上させていただいております。また、決算で予算が余った分は、基金に積み立てておりますので、基金の取崩額は、当初予算額よりは少なくなっております。

委員： 基金を取り崩していつているということは、事業を縮小するか掛金を上げるしかないのですか。

事務局： おっしゃるとおり、どちらかの選択になります。余っていたお金を有効に活用するということもあり、基金が設立されましたが、基金の使用目的は給付事業に不足が生じた際の財源とすると条例で決められています。災害は予測が大変難しいので今は想定しないとすると、給付に不足が生じる最大の額で想定できるのは、福祉共済が解散となった場合の退会せん別金の支払いです。10月末現在で、もし、解散となった場合、4,600万円強が必要となります。基金を取り崩していつて、実際に基金額が4,600万円に近づいた際に、事業を縮小するのか掛金を上げるのかという議論は必要になってきます。

委員： それまでは、現状の赤字の予算のままいくということですか。

会長： 現在は、毎年、状況を注視するということでしょうね。私が運営委員になった時は、お金がすごく余っていたので、掛金を下げてはどうかとなり、実際に掛金を下げた経緯がありますので、また掛金を上げるというのはなかなか厳しい意思決定になると思います。現在は、赤字の度合いを見ながら進めていくというのが今の状態だと思います。4,600万円が最低責任準備金になると思いますが、今の基金の額を見るとまだ大丈夫かなと思います。

委員： 収支の予想では、平成でいうと40年度で5,000万円くらいになるので、その頃に考えるということですね。それまでは、今のままでよいということですか。

会長： 掛金を下げてからどれくらいになりますか。

事務局：平成24年度から下げましたので、7年目です。

会長：私の所見ですが、5年くらいで掛金をまた上げると、なぜ下げたのかということにもなりますし、10年くらいは掛金を同額で進めて、10年後に状況が変われば掛金を上げる検討をしてもよいと思います。事業を縮小するか掛金をあげるかの意思決定は必要になるかと思います。

委員：本来の目的からすると、事業を縮小するというのはあまり意味がないですね。

会長：おっしゃるとおりだと思います。みんなのためにある事業ですから。

委員：世間は人件費もそうですが、物価が上がっていっているのので、掛金も上げてもいいのではと思いました。

会長：以前は、余剰金がどんどん増えていく状況があり、余るくらいなら掛金を下げればどうかとなったと思います。掛金を下げれば、加入者数も多くなるしという話になりましたが、実際、下げると世の中の景気も悪くなり、加入者数も減少して収支が逆転したという状況があると思います。

委員：わかりました。

会長：市役所の横にジムができたと思うのですが、その施設の斡旋等はないのですか。

事務局：現在、フィットネスクラブでは、コ・ス・パの施設利用券を取り扱っています。その新しくできたジムでもそういった利用券のようなものがあれば、斡旋は可能だと思いますので、また問い合わせてみます。

【 45周年事業アンケート結果について事務局より説明 】

福祉共済の新キャラクターを募集する案は、今回は見送ります。被共済者の方向けに特典等を提供していただける事業所を募集する案は、全員賛成のため、共済にゆーすで実施します。その他のいただいた案については、検討させていただいた上で、実施できるものについては実施させていただきます。

会長：事務局からの説明についてご質問、ご意見があればお願いします。以前、ボウリング大会を開催していませんでしたか。

事務局：平成22年頃までは、毎年、開催していましたが、参加者がどんどん減っていったので、開催しなくなったという経緯があります。

委員： 岸辺駅の横に人間ドック専門の済生会吹田病院健康管理センターができましたが、人間ドック補助の対象ですか。

事務局： 対象となっています。済生会吹田病院健康管理センターは、岸部への移転をきっかけに脳ドックも始められたそうですが、脳ドックのみも補助対象となります。

会長： 45周年に対する案で、数独やクロスワードを共済にゆーすに掲載するという案は、共済にゆーすを読んでもらうという意味ではとても効果的だと思います。景品についても、毎月数名ということでは、大した支出にはならないと思います。

事務局： 検討させていただきます。

会長： 事業所に協賛を募るということですが、共済にゆーす以外のアプローチはしないのですか。

事務局： 加入事業所に対しては、共済にゆーすのみとなります。また別に45周年事業として、過去に福利事業にご協力いただいた企業に協賛のお願いをする予定です。

会長： 市役所の1階に色々展示されている企業にもお願いするというのはどうでしょうか。一般向けするものとしめないものがあると思いますが。

事務局： 検討させていただきます。

【 ボウリング大会開催と生活習慣病予防健診補助の拡充について事務局より説明 】

9月8日（土）に開催予定だったソフトボール大会が雨天中止となったため、代わりにボウリング大会を来年2月15日（金）午後7時から、関大前フタバボウルにて開催する予定です。共済にゆーす12月号で参加者の募集を行います。

また、新規事業所の加入促進のために、事務局では来年度から生活習慣病予防健診補助の拡充を検討しております。具体的には、商工会議所が行う定期健康診断（生活習慣病予防健診）を受診された方も補助対象とすることで、商工会議所に加入している事業所へ商工会議所ニュースへチラシの挟み込み等を通じて、福祉共済をPRできれば、と考えております。運営委員の方にも本日、福祉共済のチラシをお配りしましたが、新規加入事業所獲得に向けてご協力いただけましたら幸いです。

会長： それでは、全体としてご質問、ご意見があればお願いします。

副会長： 加入者が一番多い時期で350社、今年10月31日現在では193社とかなり事業所数が減ってきて、掛金収入が減り給付が増えてくると思いますので、基金の

減り方も予想より早くなると考えられます。とにかく加入事業所を増やすということが重要ですので、商工会議所との連携は非常によい試みだと思います。

委員： 商工会議所ニュースにチラシを挟み込んだら、新規に加入する事業所があると思います。

会長： 他にご意見、ご質問等ございませんか。

それでは、本日の案件につきましては、すべて終了いたしましたので、以上をもちまして、本日の運営委員会を閉会させていただきます。